

【配点】③1 各1点×12 ①6 ②2 ③2 各2点×12 ①3・4 ②1・4・5・7 各6点×6 その他 各4点×7

1

1 反論しながら読む

2 X 「普遍化」という視点

Y まったく違う二つのこ

Z 本質を理解すること

3
 知識や情報から出来事や現象を自分なりに理
 解し解決に持っていきるところまで考えを深
 めることに。

(同意可)

4
 現在起きている似たような現象がどう推移していくのか見当が付き、将来また同
 じような現象が起きたときに対処の仕方や起こった原因などを理解できるという
 こと。

(同意可)

5
 イ 6 a ウ b エ c イ

2

1
 A 楽譜につけた強弱の通りに歌えている
 B 盛り上がりの山がずれてしまっている

(同意可・完答)

2 A イ B イ C エ 3 練習を積む

4
 感動とは指導されて生まれるものではなく、自発的な合唱によって生まれるもの
 だと考えていたから。

(同意可)

5
 自分とは住む世界が違う人間だと思
 いがり、周りと距離を置いていた
 6
 ウ

(同意可)

7
 自分が置かれている状況やかかえている事情をきちんと受け入れ、前向きに生き
 ていこうとする気持ち。

(同意可)

3

① 軍手	① ⑥ 手製
② 衣類	② ⑦ 定額
③ 便乗	③ ⑧ 刷新
④ 資材	④ ⑨ 軽減
⑤ 全長	⑤ ⑩ 寒気

2
 ① 成 ② 文 ③ ○ ④ ○ ⑤ 口 ⑥ 画

⑪ しゅしょう ⑫ ていちょう

① この後で「けんかをする」とはどういうことが述べられているだろうと考えながら読み進めていくと、本文七行目に『けん

か』という言い方が適切でないならば、『反論しながら読む』と言い換えればいいかもしれません』とある。

2 X ——線②を含む一文を読むと、ここより後でこの視点について述べられているとわかる。ここより後では「普遍化」が話題になつてい

なつてい

る『ためには、具体的にどのようなことをすればよいのか』が同意であるため、ここより後から探す。直後の段落では字数が合わないが、二段落後の「このように」からはじまる一文で同じようなことが述べられていることに気づきたい。

Z 問いの「(普遍化)という」視点を持つことは、結果的にどのようなことにつながるか」と、「普遍的な構造を見つけ出すこととが、結果的に本質を理解することにつながる」と書かれた本文最後の一文とを結びつけて考えたい。

3 「直後の段落の言葉を使って」という問いの条件を読み落とさないようにしよう。「知識や情報を材料にして／出来事や現象を」

「自分なりに理解する」「解決に持つていけるところまで考えを深める」というポイントをおさえてうまくまとめたい。

4 ——線④を含む一文を読むと、「年号や事実を記憶するものではない」と考えていることがわかる。直後の一文で「私は歴史から未来へのアドバイスをもらうのが目的だと考えています」とあるが、この「歴史から未来へのアドバイス」というのは比喩表現なので、それがどうい

うことなのかをこの後に書かれている内容でうまく言いかえよう。

5 ⑤を含む一文の冒頭の「それ」は「普遍化によって現在の自分が置かれている状況を、今よりも俯瞰して見られるようになること」を指している。⑤を含む一文をわかりやすく言いかえると、「⑤に終わっている学問が、普遍化ができれば、現在や未来に生きたものになる」となる。よって、普遍化されていない学問がどのようなかをまずは考える。(6-1)の最後から十行前に「この普遍化の作業がなければ」歴史で学ぶことは過去の一事例に過ぎず、使いものにならない」とあることから、「せっかく学んでも使いものにならないもの」という意味の言葉を選ぶ。

6 (a)の前では「複数の分野を理解することの重要性」と「絶えず関連づけを探し出してくるクセをつけること」の大切さというように、普遍化する能力を身につけるために大切なことが並べられているので、(a)には並列・添加のはたらきを持つ「そして」が入る。(b)には、これを含む一文が「くからです」で終わっている

ので、理由説明のはたらきを持つ「なぜなら」という内容が書かれているので、(c)には逆接のはたらきを持つ「でも」が入る。

② 「同じ段落の言葉を使って」という問いの条件を読み落とさないようにしよう。②の一文の「毎日練習を重ねたおかげでくはず

なのに、く」という表現から、Aにはプラスの内容、Bにはマイナスの内容が入ることがわかる。Bはただ「ずれる」

だけだと何がずれるのかわからないので、本文三行目の「盛り上がるの山がほんの少しずれる」を使いたい。

2 辞書的な意味を知っているともちろん有利だが、「ここでの意味」を聞かれているので、本文の場面と照らし合わせて考えていくことが大切である。

3 この「あの頂上」とは、マラソン大会の際に聞いたよるこびの歌を指しているわけではないことに注意したい。——線②の六行前に「あれ(マラソン大会でのよるこびの歌)以上の歌を聴くことはもうないと本気で思った」とあるが、その二行後に「しかし、違った」とあることに注目しよう。

4 ——線③の直後の一文が「くから。」で終わっているからといって、安易にその一文を書くだけにとどまってはいけない。「指導者ではないような気がしていた」ということは、指導することに対して何かしらのデメリットを感じているということなので、「指導しすぎることは良くないと思っ

ている」というニュアンスが感じられるようまとめたい。

5 少し前まで「仲の良い子がいなかった」理由は、本文後半に述べられている通りである。「いろんなものを見くびっていた」「すべてを人のせいにしていた」「思い上がっていた」からであるが、そういう気持ち

が態度に出していたから、周りから話しかけられなかったのである。

6 ——線⑤の四行前の「他の人には意味がなくても、私には意味がある。そういうことがだんだんわかってきた」という早希の発言から、以前は「自分にとつても意味のないことだ」と投げやりに考えていたことが読み取れる。他の選択肢でも本文中の言葉が使われているのでよく考えて解きたい。

7 ——線⑥の直後の「いくら現実逃避したところで、ここで私は生きていくのだ」という一文に注目したい。この「ここで生きていく」は諦めの気持ちではないことに注意しよう。ここより前の部分で、今まで現実逃避していたことを後悔していることから、前向きな決意を固めたのだろうと考えられる。あとは、——線⑥の「世界は六十八億の人数分ある」ということを説明として前半に付け加えてまとめよう。

③ 1 最低限として、漢字の字形は正確に覚えておこう。④は「資財／私財」、⑤は「前兆」、⑦は「低額／停学」、⑩は「歓喜／換気」

などと書くとおかしな文になってしまう。これらは別の同音異義語と書き分けられるように、意味の違いをきちんとおさえておきたい。

2 どれも誤りやすい漢字のものである。「誤っていれば正しく書き直した漢字一字を答えなさい」という指示を読み落とさないように気を付けよう。